



〒520-0041 滋賀県大津市坪町1-38 滋賀銀行従業員組合 TEL 077-521-2775 FAX 077-525-5232 http://www.biwa.ne.jp/f/fs/ e-mail: ffs@biwa.ne.jp

# 平和への「思い」8月 語られる「戦争と私」

## 不戦の誓い新たに 平和への「思い」

8月6日・9日と15日に寺院の梵鐘が撞かれ、公民館などのサイレンが響き、68回目の終戦の日を迎えました。アジア・太平洋戦争の結果、2000万人を超すアジアの人びとと310万人以上の日本国民が犠牲になりました。この戦争の反省の上に立ち、憲法9条は戦争放棄を宣言し、戦争のための武力は持たず、紛争は話し合いで解決する「ことを明確にしました。今この「日本国憲法」を変えて戦争のできる国にしようとする策動が進められています。

従業員組合は、先輩組合員のみなさまと共に考え、学び、不戦の誓いを新たにします。

### 戦争と私

日根野 昭三



昭和十六年十二月八日、真珠湾奇襲攻撃によつて始まった第二次世界大戦（大東亜戦争）の時の私は、ラジオから報じられる幾多の戦果？に胸ときめかせる？当時八商（現八幡商業高校）

二年（十三才）の軍国少年でした。戦争の深化にともなつて、働き手の若い人々が赤紙によつて軍事招集され、人手不足となつた農家の勤労・作業に学徒動員で再々従事しました。それも地元の「八幡」だけでなく、「武佐・安土・能登川」と広範囲にわたつていたと記憶しています。

更に戦争が悪化する中で昭和十九年六月には、軍需工場への「学校・学年」ごみみの動員があり、私達「八商」の五年生・四年生約四百人は堅田の飛行機エンジン部品を作る鋳物工場で学業をよそに働くこととなり、この工場で終戦を迎えます。

では恐らく数十人ではなかつたかと思ひます。この年の二月・三月には十七才を迎えた多くの仲間が「簡閲点呼」の名の下に軍隊に臨時召集されていったからです。一年三カ月余の工場生活の中、二十年三月以降は「空襲警報」への避難訓練や、現実に米艦載機の機銃掃射の中、工場のすぐ横を流れる「衣川」の土堤下で逃げ惑う、或いは真夜中の空襲警報で近くの小山へ間の中を避難する等、生産活動は極度に停滞がちであつても、それでも「戦争に勝つ」と信じ込ませる「教育の力」。戦後六十八年を経た今日、当時を振り返ると今の政府が何をもくろみ、何をしようとしているのかその結果は歴然です。今黙つていて日本の将来は？又私達多くの国民の暮らしは？平和を愛する多くの人たちと共に手を結び頑張つていきたいと思います。

### 「はだしのゲン」の 記憶の共有

坂本 幸男



松江市の教育委員会が、原爆や戦争の悲惨さ描いた漫画「はだしのゲン」の閲覧制限を加えていたという。

制限を加えた意思はともかくとして、戦争・軍隊・平和を考えるうえで子供への数少ない貴重な、歴史的的作品である。制限理由の一つに「軍隊の行為が事実に対する描写」があるという。「ゲン」（作者の等身）は、私より確か2歳年長と記憶している。「ゲン」にしても当時の記憶には、当時の実生活の中の軍隊の「理不尽」と思える記憶はある。「ゲン」を支持する意味で記憶から2つの証言をしておきたい。

一つは、憲兵から受けたものである。当時の国鉄呉線の車中で憲兵から叱責を受けたことがある。呉（海軍呉海兵団の本拠地）へ父との面会に行く途中のこと、呉の手前に「ひろ」という地名がある、そこには海軍飛行場が在り、車中から外を覗いてはいけないうことになってゐる。覚えておられる方もあると思うが、当時の列車の窓にはジャバラの鎧戸があり、そこを通る際には、憲兵からの閉める指示が乗客になされた。いたずら心から「デッキ」で覗いているところを運悪く、憲兵が発見されわずか6歳の子供が母ともども油を絞られた事件である。1945年原爆投下の10月15日前に、呉から広島を經由して大津に帰つて来ているが、その時の行き路のことである。

もう一つは、近くで出征兵士を送る時のことである。道を隔てて「送行会」が行われていた。私が向こう側に渡るうとした時、陸軍の車列が通過して、どうもその車列の間を縫つて道を私が横切つたことで、車列がストップしてしまつた。数人の兵隊が降りてきて、「子供と親を出せ……」と。これも「理不尽な行為」という見せしめの叱責を受けた。

しばらくして、将校軍服を着た近所のおじさん（退役将校）が大声で「この子は出征中の家族である。なにか……？……？」私の前に立ちただかつて一見落着、それで車列が動きだした。

つまり6歳の幼児であつても軍の威圧は向けられていたのであろう。ついでに歴史的認識の問題としてのことで、当時、我が家の壁に貼られていた「世界地図」の記憶は鮮明である。なぜかというところ軍の父が「今、この当たり……」と眺めていたため、満州当たりから東シナ海の左当たりまでが赤い（日本の表示）世界地図であつた。

記憶を風化させない努力を痛感した、2013年の夏、8月である。



写真は文章と関係ありません

昭和二十年三月、工場の運動場で私達五年生の卒業式と一緒に四年生の繰り上げ卒業式がおこなわれます。しかしこのときの卒業式に参加できたのは五年生仲間

### 今年 銀行も「平和」の理念を！

東アジアを中心に海外進出する企業を支援する以上、そうした国々のより多くの人々に滋賀銀行は話の分かる銀行、すこい銀行だと思われような理念を持たれるべきだと考える。

8月1日に開催された労使懇話会で組合は、四囲の情勢からも求められている「アジア戦略と平和理念」について以下の主張をしました。

今年 銀行も「平和」の理念を！ 懇談会 海外との関係について申しあげた。今、中国や韓国との間で領土問題をめぐって関係が悪化している。平和の安定や当行のアジア戦略とのかかわ



アカンとはアカンと言いつつ、アカンとアカンと

植木 和美

第59回日本母親大会「東京」に参加しました。24日の全体会は、弁護士の伊藤真さん、改憲を狙う危険な安倍政権、戦争を認めず（正義の戦争なんてない）、人（個人・個人）が大切にされる現憲法を（ゆっくり・いそいで）みんなに知らしめていくことの大事さ！ 立て板に水の如く話され、あらためて憲法の素晴らしさ、大切さを痛感しました。



2013.08.24

これから「キンカン」がインバロウ。2日目分科会「前進座の稽古場見学と役者さんとの交流」最初、「くじ」に外れたのです。キャンセルが出て幸運にも参加できました（実は、昨年9月に「閉館される」と聞き、どうして一度見ておきたいと表まで行きました）。午前中、劇団員さんによるワークショップ「見栄のきり方、立ち回り、女性の歩き方や泣き方、笑い方」等々、回り舞台の上での実践ありの楽しい体験となりました。午後からは、お弁当を食べながらの交流。劇団員の方々の「なぜ前進座に・・・」、ユーモアを交えての語り、藤川矢之輔さんの創立から現在までの歩み聞き、分科会終了の時間まで「アツ」という間に過ぎていきました。人が人として生きていくうえで、どんなに文化が大切か・・・。厳しい稽古を続けながら、全国各地に生の舞台の素晴らしさを届けてくださる前に。

全体会議の感動 平和への想いを新たに

寺田 登代子

1954年、アメリカの水爆実験でマグロ漁船・第五福竜丸が被爆し、久保山愛吉さんが亡くなられました。「原水爆をやめよ」と署名運動が拡がり、1955年世界母親大会が開かれました。以来、日本では毎年母親大会を開いてきました。歩み続けて今年第59回日本母親大会を、8月24日・25日の両日東京で開催されました。滋賀県から68名の代表団のみならず、一緒に参加してきました。2日間、全国各地から約1万2千人が参加しました。



会場内での様子

8月24・25日に第59回日本母親大会が幕張メッセで開催され、全国から延べ1万2千7百人が集まり、3人の先輩組合員が参加されレポートが寄せられました。

### 戦争と私

馬場 正男



昭和18年9月に、父が軍人としては最高年齢の41歳で海軍に召集（赤紙）されました。母（34才）と私11歳（5年生）弟9歳、7歳5歳、妹1歳でした。父は、私に家族も他人にも絶対に話してはいけないと前置きして「今回の戦争は近く必ず負けるから自分から志願して兵隊にはなるな・中学校へ入学しろ・・・」

今日、自公の悪政のもと全国各地のたまたかの報告に胸が熱くなった。一人一人の力は小さいけれど、この歩みを止めることは出来ない。アカンことはアカンと言いつつ、アカンとアカンと。

私は、昭和20年4月に中学校に入学しましたが、周囲の多くの生徒は、軍人になることを夢みていました。学校では、勉強など少なく軍事訓練や学徒動員で東レ工場などへの派遣でした。

昭和20年8月15日、中学入学後4カ月余りで終戦になりました。父が11月に復員して、「なぜ日本が負けたのか」を聞きました。答えは「日本は、米國に全ての面で20年遅れているからだ、それは、大正12〜18年頃自分海軍に入隊し輸送船で原油を輸入のとき、米國の物量の多さや施設機械の充実など全く比較できないくらい遅れていたからだ、なぜ、こんなことが上層部には？・・・」

### もう戦争はいらない

八軒 和也



戦争と言っても、ただ恐ろしいと思うだけで、実際に戦争を知らない私は、ぴんと来ないのが本当の所です。毎年、平和行進で、平和を祈願して歩いていると、

父の「この言葉」「家族6人が生活に苦しんだこと」を思い出します。

私は、終戦の日になると、

これが戦争時代なら、空には戦闘機が飛び交い、爆弾が投下されていたのかと想像すると、本当に恐ろしい限り。いつ命を落とすかもしれない恐怖に怯えてしまっています。今何気なく歩いて行進している平和な時代、そこに居る事が本当に幸せなのだと感じた。

少し前になるが、原水禁世界大会に参加した時の勉強会では、軍事費がテーマで、そこでは、戦争しない日本がこれだけの軍事費を費やしているのに驚いた。車や鉛筆しか造っていないと思っていたM社が戦車を製造しているのを知りました。

もう戦争はいらない、軍事費を抑え、国民の暮らしに還元するような国になつてほしい、そう思います。

24日、全体会議では、伊藤。憲法25条は社会に必要とされるつながりを保障する制度だと考える。貧困を理由に社会的孤立を深めるケースがなくなるような報道を続けたい」と、凛として話されました。この素晴らしい報道姿勢を応援し続けたいと、いつも思っています。板垣さんの日本母親大会での分科会には毎回参加しています。憲法25条の生存権が如何に脅かされているか、会場からも生々しい発言が相次ぎました。身を引き締めて帰ってききました。「生命を産みだす母親は、生命を育て生命を守ることを望みます。」憲法の大切さを学んだ二日間でした。

藤真弁護士の「憲法のいきづく国に」の記念講演。前進座の朗読劇「死んでもブレストを」では、東京大空襲で亡くなった28人の女性電話交換手たちのあまりの傷ましさに・・・。戦争の残酷さと平和への想いを新たにしました。草の根の運動交流会では、原発ゼロ・雇用・くらし・平和など全国の力強い運動の報告に胸を熱くしました。25日の分科会は、シンポジウム「人権としての社会保障の実現」に参加しました。パネリストはNHKの板垣淑子さん、反貧困ネットワークの宇都宮健二弁護士さん、金沢大学名誉教授の井上英夫さんです。板垣さんは、国営放送のようなNHKのなかで「ワークینگプア」や「無縁社会」の実態を誠実に制作し報道を続けてこられました。今回も生活保護を受ける40代の男性が仕事が見つからず自殺した番組の一部を紹介しながら、生活保護受給者の自殺率が一般の人の2倍であるという実態を告発されたのがとても衝撃でした。憲法25条は社会に必要とされるつながりを保障する制度だと考える。貧困を理由に社会的孤立を深めるケースがなくなるような報道を続けたい」と、凛として話されました。この素晴らしい報道姿勢を応援し続けたいと、いつも思っています。板垣さんの日本母親大会での分科会には毎回参加しています。憲法25条の生存権が如何に脅かされているか、会場からも生々しい発言が相次ぎました。身を引き締めて帰ってききました。「生命を産みだす母親は、生命を育て生命を守ることを望みます。」憲法の大切さを学んだ二日間でした。